

あいさつ

岡田 康彦（環境庁事務次官）

ご列席の皆様。

我が国を代表して、この会議に遠路はるばるご参加いただいた、中国、モンゴル、韓国、ロシアの代表団の皆様、並びに、日本国内の各地からお集まりいただいた参加者の皆様を、心より歓迎いたします。また、日頃から北東アジア地域における環境協力の推進にご尽力いただいている、国連環境計画及び国連アジア太平洋経済社会委員会の代表の方々に対しましても、深く敬意を表します。

この「第8回環日本海環境協力会議」を我が国で開催できることを大変光栄に思います。

北東アジア地域には、異なる言語、習慣、宗教をもつ多様な民族が暮らし、古来から社会的、文化的な多様性に恵まれてきました。また、経済面においても、様々な発展段階にある国々を擁しております。さらに、地理的に見ても、寒帯から亜熱帯までのひろがりの中で、自然条件においても大きな多様性を示しています。この多様性のため、各国ごとに優先度の高い環境問題は異なっておりますが、環境保全、また、環境協力を推進しようという意志は、参加者すべてに共通であると信じております。

北東アジア地域における環境問題の解決に向けた情報交換と、国際的な協力・連携のあり方を自由に、且つ率直に話し合う重要な機会として、1992年に我が国の新潟市ではじめて開催されてから、本日ここ第8回を迎えることが出来ました。このことは、参加各国の環境保全及び環境協力への強い意志の現れではないでしょうか。

今回の会議は、「環境保全に関する国と地方自治体の取組と環境協力への反映」を全体テーマとして開催し、地方自治体が主体となった環境保全と環境協力の推進を中心に議論します。市民とのつながりがより深い地方自治体は、環境協力の主体として、新しく、また、大きな可能性があると考えています。

また、本日は、「新たな地域連携と環境問題への取組：京都からの発信」として、公開シンポジウムを開催し、皆様と共に、地域社会を構成する、市民、事業者、学術、行政の連携による環境保全と環境協力の推



進について理解を深め、新たな連携に向けた発信となることを目指します。

環境問題の多くは、私たち一人ひとりの活動にも起因しており、環境に優しい社会を構築していくためには、個人、事業者、地域社会、地方自治体、国などのあらゆる主体が、それぞれの立場に応じた行動に参加する必要があります。また、こうした主体が、それぞれの取り組みを進めるとともに、各主体の特徴と役割を発揮しながら連携することで、より大きな効果を生み出します。さらに、こうした連携を、国際的に広げていくことが、地球規模での持続可能な社会の実現に、一歩ずつ近づいて行くことになるのです。

今回会議において、環境分野の各主体の連携について有意義な議論がなされ、北東アジア地域、さらには地球規模の環境問題の前進に寄与することを期待しています。

ご静聴ありがとうございました。

草木 慶治（京都府副知事）

京都府の副知事をいたしております草木でございます。開催地の京都府知事の荒巻禎一に代わりまして一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

本日は、海外あるいは京都府内外から多数のご参加をいただきまして、環日本海環境協力会議が、日本海側のここ舞鶴の地でこのように盛大に開催されましたことを主催者の一人といたしまして大変喜んでおりますと同時に、関係者のご尽力に厚くお礼を申し上げます。

中華人民共和国・大韓民国・モンゴル国・ロシア連邦の4か国、さらに国連環境計画、国連アジア太平洋